

## 1 学力向上ステップアッププラン1年目（H23年度）について

### 1 児童・生徒の状況

#### (1) 学習事項の定着（学力）について

##### (成果)

大阪府学力・学習状況調査の結果より、正答率80%以上の児童が少なく正答率40%以下の児童が多い状況は、多少の変動はあるものの今年度も全般的には変わらず、学力が向上したとは言えない。しかし、教職員全体で80%以上の層を増やし40%以下の層を減らすために、低学年時より生活指導を含めた学力向上に取り組まなければならないという意識は共有できている。この意識の共有から、次のステップに向けて、学校全体の学力向上に向けての新体制づくりを行った。府教育センターのパッケージ研修を通して職員全体が授業改革に取り組んだ。その結果、教職員の意識は変わり始め、児童は、授業で前向きに落ち着いて取り組めるようになった。また、問題解決型学習のノート指導が徹底し、自分の考えを自分の言葉で表すことへの抵抗感が薄くなってきた。

また、家庭学習にもほとんどの児童が取り組むようになり、勉強しなければならないという意識が高まってきた。保護者も家庭学習に協力的になってきた。

##### (課題)

国語・算数ともに活用・発展問題に課題が見られる状況は変わらない。国語については、国語に対する興味関心を持たせることや、「書く力」「伝える力」をつけていくことが課題である。パッケージ研修で取り組んだ「読む力」の成果については、今後も検証していきたい。算数については、活用問題に見られるような理由や考えの説明を「書く」という問題を苦手としている。また、やる気・意欲において児童により大きな差異が見られることも課題である。全ての児童が達成感・成就感を味わえる授業を習熟度別指導により追求したいと考えている。子どもにとって魅力的で楽しく学力をつけることができるような授業づくりを目指したい。授業内容がわからない児童が気軽に「教えて」と言え、わかるまで教える支援体制をさらに充実させたい。

#### (2) 「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

##### (成果)

地域社会に恵まれた本校では、「人の役に立ちたい」や「地域行事に参加する」などの項目で高い値を示している。これは、活発な地域行事活動や地域の方々が学校教育に参画するなどの具体的な成果であると考えられる。「つながり力」については、しっかりしたものが身についていると思われる。特に、校内行事では、高学年を中心に、入学式・卒業式など行事の準備や後片付け、委員会活動にも積極的に関わろうとする態度が見られる。

##### (課題)

成就感、自己肯定感、夢・目標を持っているかを問われるような項目では、依然数値が低くなっている。将来への展望を持たせ、自尊感情を高めることができるような指導を展開することが求められている。基本的な生活習慣は確立されているが、いろいろなことに興味・関心を持って活動しようとする意欲が低く、自分に自信がない。また、子ども同士でのつながりの面でも、相互扶助の精神や望ましい友好関係の構築などにおいて、課題が浮き彫りになってきている。「学び力」については、家庭での学習量が少なく、読書や予習・復習の習慣も身につけていない。児童自身の自学実践が課題である。

## 2 学校の取組

(成果)

茨木っ子プラン22の本校の取組の柱は、学習の下支えとしての「ゆるりんルーム」の開設であった。精神的安定を欠く児童の支援を行うことで、間接的に学力の保障を図った。専門支援員が支援の中核を担い、教室に入れない児童を教室に戻すなど、一定の成果を収めた。

本年度、研究推進体制を一新した。「企画委員会→推進委員会→全体会」という流れで、研究を進めた。教職員の参画意識も高まり、トップダウンではなく、取組みを全体でシェアすることに役立った。

学力向上のための直接的な取組みとしては、のびのびタイム、算数教室、学習ルールづくり、問題解決型学習、パッケージ研修、家庭への働きかけと、多くの取組みを実施した。着実に成果を上げたと思われる。特に府教育センターのパッケージ研修は、研修に対する教職員の意識変革に大いに寄与した。来年度も継続して取り組めるので、さらなる深化を目指して、全校体制で進めていきたい。

(課題)

学校全体としての具体的な学力向上の取組みを更に充実・発展させることが不可欠である。児童については、学習規律・粘り強く学ぶ姿勢・家庭学習の充実の3点を重点項目に挙げ、取り組んでいきたい。教師については、今年度も継続して実施できるパッケージ研修を活用し、授業の更なる質的向上を図り、子どもたちにとって楽しくわかりやすい授業を確立したい。

## 2 これから3年間（H23～25年度）の取組について

### 1 3年間の重点課題

	重点課題	検証軸	25年度の到達目標
①	全国学力・学習状況調査 正答率40%以下の児童を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国・大阪府学力学習状況調査</li> <li>・児童のノートやアンケートによる授業評価</li> </ul>	全国学力・学習状況調査 正答率40%以下の児童を半減させる。
②	個々の活用（応用）能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国・大阪府学力学習状況調査</li> </ul>	B問題の平均正答率を高める。
③	学ぶ意欲を持つ児童を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国・大阪府学力学習状況調査</li> <li>・児童のノートやアンケートによる授業評価</li> <li>・学校教育自己診断</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無答率を減らす。</li> <li>・国語や算数を「好き」と感じる児童を増やす。</li> </ul>

## 2

## 3年間の取組計画

3年間共通の計画	年度ごとの計画	
① 授業の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業（国語） 【学力向上重点校プロジェクト パッケージ研修】</li> <li>・初任者指導 先輩授業の公開など</li> </ul> ② 個への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の支援（支援教育サポーター、専門支援員）</li> <li>・算数教室（毎日 10：25～10：45）</li> <li>・分割授業の工夫（年間を通して習熟度別授業）</li> </ul>	平成 23 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進体制の整備</li> <li>・全体の取り組みの統一化をはかるための準備</li> <li>・計画の評価と見直し（PDCA サイクルで）</li> </ul>
③ 全体の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・のびのびタイム（第2、4木曜日 全職員がかかわり、基礎問題に焦点を当てた『<b>一歩ずつ</b> <b>プリント</b>』をする。24年度は、年間20回以上実施する）</li> <li>・学習のルール作り（ノート指導、発表の仕方など）</li> <li>・問題解決型学習の定着、他教科へもひろげる。</li> </ul> ④ 家庭へのはたらきかけ（家庭学習の習慣化、算数便り『算数チャチャチャ』の定期的な発行）	平成 24 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の取り組みの深化</li> <li>・計画の評価と見直し（PDCA サイクルで）</li> </ul>
⑤ 家庭学習がんばり週間（年2回実施） ⑥ 体力向上（外に出て遊び、体を鍛える。25分休み、20分休みの創設。大縄の活用） ⑦ 小中連携の強化（共通テーマによる授業作り） 太田中校区「小中交流委員会」の創設 三島中校区教頭会での交流 ⑧ メリハリのある学校生活（遊び場を守り、しっかり遊ぶ。チャイム着席の励行）	平成 25 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の取り組みの深化、充実</li> <li>・3ヵ年計画の取り組みの検証と次年度以降への展望（PDCA サイクルで）</li> </ul>

